

業界誌に向けた記者会見を行う6団体代表者たち（日工組で）



日工組、日遊協など6団体が声明

遊技機健全化を促進

「該当遊技機」を早急に撤去回収

日工組、全商協、日遊協、同友会、余暇進、PCSAの6団体は12月25日、「ぱちんこ遊技機の撤去回収等に関する声明」を出し、同日、業界誌への記者会見で発表した。

いわゆる「遊技くぎ問題」に関しては、日工組がメーカーの立場

から12月10日、「『今後の遊技機』について」と題する通知（16ページ別掲）を出した。今回の6団体声明では、「遊技くぎ問題」を契機として射幸性の高い遊技機の撤去回収を強力に推進し、遊技客が安心して遊技できる環境を整備することを社会に向けて宣言した。

6団体の声明概要では、①業界はすでに新基準に該当しない高射幸性遊技機について撤去に取り組んでいる ②日工組の調査で遊技機がメーカーからホールへ出荷される段階で既に検定機と異なる性能となつている可能性があり、日工組から警察庁に問題があると思われる遊技機の回収を進めるとの報告がなされ、警察庁からホール関係5団体に可及的速やかに当該遊技機の撤去を推進するよう要請がなされた——など、現状・経緯を説明した。

その上で、「メーカー間、ホール間での競争が激化する中、射幸性の高い遊技機の比率が市場で高まったことが一因ではないか」と分析、「遊技客を保護する見地から、射幸性の高い遊技機の撤去を進めていくことがぱちんこ業界にとつて喫緊の課題である」と述べ、最後に、6団体として、「今回の遊技くぎ問題を契機として、現在進めている射幸性の高い遊技機の撤去を強力に推進するとともに、より

安心して遊技できる環境を整備するため、6項目の事項に合意して、早期に積極的に健全化を推進していく」と宣言した。6項目の合意事項として、「日工組からホール団体に通知される入替が必要な型式の遊技機については、可及的速やかにこれを撤去回収する」などを挙げている。

□ 会見に出席した業界団体代表（順不同、敬称略）

金沢全求（日工組）▽中村昌勇（全商協）▽庄司孝輝（日遊協）▽東野昌一（同友会）▽千原行喜（余暇進）▽金本朝樹（PCSA）

ぱちんこ遊技機の撤去回収等に関する声明

平成27年12月25日

余暇環境整備推進協議会

日本遊技機工業組合

代表理事 笠井聰夫

理事長 金沢全求

一般社団法人

全国遊技機商業協同組合連合会

パチンコ・チェインスストア協会

会長 中村昌勇

代表理事 金本朝樹

一般社団法人

ぱちんこ業界では、依存（のめり込み）問題に対応するため、去る9月に関係団体で締結した「高射幸性遊技機の取り扱いについての合意書」に基づき、新基準に該当しない射幸性の高い遊技機について、

日本遊技機関連事業協会

会長 庄司孝輝

一般社団法人

代表理事 東野昌一

日本遊技産業経営者同友会

代表理事 東野昌一

一般社団法人

一般社団法人

「今後の遊技機」について

日本遊技機工業組合(以下、「日工組」という。))は「遊技くぎ」の問題に係るぱちんこ遊技機の回収、撤去に伴い、新たに設置することとなるぱちんこ遊技機に関して、下記のとおりといたします。

記

日工組といたしましては、「遊技くぎ」に関連する事案に該当するおそれのある遊技機を貴団体の協力を得て、営業所から速やかに回収し、適正な遊技機に入れ替えていくことと致しました。

もちろん適正な遊技機は、検定を受けた型式と同一性能の遊技機を出荷していきます。

適正な遊技機においては、射幸性を抑え、手軽に安く安心して楽しめる多種多様な遊技機を開発、販売してまいります。過去の遊技機と比較して、性能が大きく異なる場合もあることを配慮し、遊技仕様等については、ホール団体様の意見、要望を聴取させていただきます。

当該遊技機を平成28年1月から随時販売していき、遅くとも4月からは、日工組全組合員が揃って販売することとし、今後、遊技機の型式名や時期も明確にしていきます。

入れ替え対象となる型式機種については、改めて段階的に通知させていただきます。

今後の遊技機開発にあたり、「遊技くぎ」の変更による性能の違いが起こらない遊技機を目指し、「遊技くぎ」においては、変更がされない、または変更があれば変更を確認できるような対策を検討してまいります。

また、併せて「遊技くぎ」の部品交換の際には、「遊技くぎ」に関する点検確認をさせていただきます。

今後の遊技機においては、射幸性における依存問題等の解決と不正防止に努め、遊技客の増加を目標とし、遊技客とホールが安全、安心して使用できる遊技機を提供してまいります。

その撤去に取り組んでいるところでありませう。

さて、このたび、遊技くぎ問題に関する一般社団法人遊技産業健全化推進機構の遊技機性能調査結果(6~8月)を踏まえた日本遊技機工業組合(日工組)の調査により、遊技機がメーカーからホールへ出荷される段階において、既に検定機と異なる性能となつていける可能性があるとして、日工組から問題

があると思われる遊技機の回収を業界を挙げて進めていくとの報告が警察庁になされ、それを受けて、警察庁からホール関係団体に対して、可及的速やかに当該遊技機の撤去を推進するよう要請がなされたところでありませう。

ぱちんこ業界としては、現下の状況を重く受け止めざるを得ませう。メーカー間、ホール間での競争が激化する中、射幸性の高い遊

技機の比率が市場で高まったことが、その一因ではないかと思つております。遊技客を保護するといふ見地から、射幸性の高い遊技機の撤去を進めていくことこそが、ぱちんこ業界にとって喫緊の課題であります。

そこで、我々6団体は、今回の遊技くぎ問題を契機として、現在進めている射幸性の高い遊技機の撤去を強力に推進するとともに、遊技客がより安心して遊技できる環境を整備するため、下記の事項に合意し、身近で手軽な大衆娯楽というぱちんこの原点に立ち返り、早期に積極的に健全化を推進してまいります。

記

- 1 遊技客が手軽に安く安心して楽しめる多種多様な低射幸性遊技機を開発・設置する
- 2 遊技機の出荷、設置及び使用の各段階におけるその検定型式を担保するため、新たに「製造業者遊技機流通健全化要綱」及び「遊技機製造業者の業務委託に関する規程」を設ける(施行期日 平成28年4月1日予定)
- 3 日工組からホール関係団体に

通知される入替が必要な型式の遊技機については、可及的速やかにこれを撤去回収する

- 4 「高射幸性遊技機の取り扱いについての合意書(平成27年9月30日)」を強力に推進する
- 5 依存(のめり込み)問題の啓蒙・啓発活動に取り組み、行き過ぎた遊技を未然に防止するため、業界全体で策定した「依存(のめり込み)問題対応ガイドライン」の普及に努める
- 6 メーカー、版社及びホール関係者に対し、風営法等関係法令に関する教育を徹底し、コンプライアンス意識の向上を図る

正副会長会議を開催

日遊協は12月18日、緊急の正副会長ホール会議を開き、検定機と性能が異なる可能性があるぱちんこ遊技機、いわゆる「遊技くぎ問題」で、業界として社会に向けて発する声明の内容を検討、了承した。同月中に日遊協を含むホール関係団体有志が日工組、全商協と連名で「ぱちんこ遊技機の撤去回収について」の声明を行うことを確認した。

遊技機性能調査 健全化推進機構

何とか50%超える 10月、11月の
一般入賞口

一般社団法人遊技産業健全化推進機構（五木田彬代表理事）は12月4日、昨年6月1日から開始した遊技機性能調査について、11月未まで6か月間の結果概要を14社員団体に通知した。

遊技機性能調査は、パチンコ遊技機の一般入賞口への入賞状況を確認するもので、1台の遊技機において大当たり等を挟まず、2000個以上の打ち出しが確認できた調査のみを有効としている。

6か月間の有効調査台数は全国51（延べ124）地区（都府県方面）443店舗の715台。打ち出し球数は2006～3701個で、平均2960個。一般入賞口への入賞が確認された遊技機の台数は318台（44・5%）。入賞が確認された台の一般入賞口への入賞球数は1～96個だった。その内訳は1～3個188台、4～6個55台、7～9個21台、10個以上54台となっている。

一般入賞口への入賞が確認された遊技機の台数を月別に見ると、

6月9台（有効調査台数32台の28・1%）、7月53台（同124台の

42・7%）、8月34台（同102台の33・3%）、9月57台（同147台の38・8%）、10月58台（同113台の51・3%）、11月107台（同197台の54・3%）となっている。

「ちよいパチ」勉強会開く

「確率40分の1未満の新機種」具体化へ

4円パチンコを低貸玉と同等の遊技料金で楽しめるコンセプトで、日工組の複数メーカーが開発を進めている「ちよいパチ（仮称）」について、導入を考えるホール企業有志と開発中のメーカーとの勉強会が12月15～17日、日工組会議室などで開かれた。

確率40分の1未満で、ヘソ賞球5個以上の安心・安全な遊技機」とすること、ホール内でのコーナー化を図るため、同時期に複数機種を発売する環境づくりが必要なこと——などの意見が出された。来年春季以降をメドに発売を計画している。

同趣旨の取り組みとして、遊技産業活性化委員会の遊技機検討ワ

「ちよいパチ」は、当たりやすく、羽根物の遊びやすさをデジパチに置き換えたイメージで、少額・短時間でも遊べる——という新しい遊技機で、4円と1円の空白域を埋め、1円パチンコに流れている遊技客を食い止める受け皿になると期待されている。台単価はリリースを利用してなるべく抑えたいとメーカー側ではいつている。

勉強会では、「ちよいパチ」の定義として「お客様に分かりやすい



メーカー、ホールの有志が集まって勉強会

貯玉補償基金理事会

本年度会費割合を承認

一般社団法人貯玉補償基金（代表理事・庄司孝輝日遊協会長）は12月2日、日遊協本部会議室で第66回定例理事会を開き、1議案を審議した。

事業会費の会費割合を審議し、平成27年度において①事業会費の95%をセンタ事業者供託金に充てる②事業会費の5%（消費税込み）を運営に充てることを承認し、次年度の暫定割合も了承した。